

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。No.
18

監視カメラ「VL-CM210」

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史
今回は、監視カメラを紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者にとって、設備のある機器室の入退室管理は電気通信事業法からも要請される重要な管理事項です。私たちが使うSTB(パナソニックTZ-BDW900)の機能を利用して簡便ながら役に立つ入室管理システムを紹介します。

写真1は、STB TZ-BDW900の外観です。写真2は、接続確認が取れている監視カメラVL-CM210です。このカメラを機器室の天井に取り付けた様子を示します。



写真1: STB「TZ-BDW900」の外観



写真3: 送電装置



写真2: 監視カメラ「VL-CM210」

カメラとSTBはイーサネット信号にカメラ用の電源を重畳して送る送電装置を介して、LANケーブル1本でカメラと接続します。電源ケーブルを別に必要としないので、配線の手間が簡単になります。

送電装置を写真3に示します。送電装置は商用電源(AC100V)に接続すると同時に、STBのLAN端子とLANケーブルで接続します。カメラからの画像は、以前の画像と大きく違う画像になった場合に30秒間STB内蔵のハードディスクに最大400件記録します。古くなった画像は削除され、新しい画像が記録されていきます。ハードディスクに記録された画像をSTBで確認すると、写真4のように最新の画像から6枚ごとに表示されます。このうちのひとつを選択すると写真5のように30秒間再生するために画面が大きくなります。



写真4: ハードディスクに記録された画像



写真5: 再生の際には画面が大きくなる

このようにしてカメラとSTBを設置しておけば、入退出の記録が400件ですが、常にハードディスクに残っていることになりません。

STBは、通常の録画や再生中でも監視カメラの記録をします。しかし、1)二番組同時録画をした場合と、2)高速ダビングと録画の同時実行中は、監視画像は記録されません。保存が必要な画像は、削除不可にしてハードディスクに保存しておく方法とICカードなど他のメディアに保存する方法があります。必要に応じて保存方法を選択します。

専用の監視カメラと記録装置には性能や信頼性の点で及びませんが、私たちになじみのあるSTBの機能を利用して、安価に機器室の入退室を記録することが出来ます。定期的に監視画像が記録されているか点検しながら利用すれば、思わぬ事故やトラブル時に役に立つ情報が記録されているかもしれません。

また、セキュリティだけでなく、自然やペット・動物の画像など、その撮影対象のアイデア次第で、さまざまな使い方ができるものと考えます。